

社協西部支所 ぶちホツと通信

オレンジフラワーできっかけづくり*

令和7年
7月号
vol.71



中央地区の支えあい推進会議『中央地区「和」サポート会議』では、認知症でも安心して暮らせる中央地区を目指して様々な取組を実施されています。

その中の一つに認知症支援、普及啓発のシンボルカラーでもあるオレンジ色の花の植栽活動を通して認知症について正しく知るきっかけづくりとして取り組まれています。

6月8日に西中連合自治区で、西中連合区花植え事業の際にオレンジ色のマリーゴールドを植えられました。

また、この取組を知った同地区の中森行雄さんは、「良いことはどんどん広がっていけば良い」と自宅にオレンジ色のマリーゴールドを植え、少しでもこの取組が広がればとご家族にもオレンジ色のマリーゴールドを渡されたそうです。

少しずつこの取組が広がり認知症について考える、正しく学ぶきっかけになると良いですね♪

体験！情報共有シミュレーションゲーム



「もし災害が起こったとき、私たちは知っている情報をしっかりと伝えることができるだろうか？助かる命を守ることができるだろうか？」

生郷地区支えあい推進会議では自治会役員、民生委員児童委員、主任児童委員、民生協力委員が集まり、6つのグループに分かれ、情報共有シミュレーションゲーム(柏原地域支えあい推進会議作成)を体験されました。自分が持っている情報を正しく伝える大切さや、その情報をまとめる力、急な場面でも冷静に対応できるチーム力をゲームで体感されました。

自治会未加入世帯が約47%の地域でどうやって様々な場面を乗り越えていくか重要な課題になっています。

自治振興会長は、「まずは、家族の中でのつながり、人ととのつながり、近所付き合いを大切にし、「自助・互助」を進め、安心・安全で元気で活力のある地域になるよう進めていきたい」と語られました。



つながりって何だろう

「人のつながりが希薄化してきた」—

そのような議論をよく耳にするようになりました。本当にそうでしょうか。

人は、自分の目に見えることだけを評価しがちです。しかし—

人は、自分の気づかないところで人とつながり、支えられて生きているのかも知れません。

稻

畠では、地域の小学生が85歳以上のひとり暮らし高齢者宅を訪問し、コミュニケーションを図るという活動が実施されました。

「暑い日がつづくので気を付けて暮らしてくださいね」との言葉かけに、おばあちゃんはにっこり。子どもたちにとっても、地域への愛着を育む機会となったようです。



写真：「学校で使ってください」と、手ぬいのぞうきんがプレゼントされる一幕も…

おたくのサロンは 何しとってん？

氷上地域のふれあい・いきいきサロン交流会で、近年巧妙化している詐欺について、西部地域包括支援センターから講師に来ていただき、職員も参加して寸劇を交えた啓発を行いました。

情報交換では、身近に起こった詐欺の話や、サロンの内容について活発に話し合っていました。



写真：「うちのサロンでも啓発せんとあかんな」

みんなの ホビー スペース

孫に編み物を教えと言われたことをきっかけに、編み物と一緒に始めました。ネットで見つけたキーホルダーが可愛くて、早速に孫と一緒に編みました。その後いろいろなバッグを編みました。

編み物好きの友達もできて今は一緒に楽しんでます(あみあみばあばさん)



趣味の作品（何でも可）
みんなも投稿してね↓
hikami@tambawel.jp